

# 須賀小学校地域拠点施設検討委員会 視察研修（足立区・流山市）

## 1 日時・場所

令和6年1月24日（水）11:00～16:00

- ①足立区あやセンターぐるぐる
- ②足立区立綾瀬小学校地域開放図書館
- ③流山市立おおたかの森小・中学校

## 2 出席者

検討委員：8名出席

佐々木委員長、上田委員、中村委員、金野委員、唐松委員、乙幡委員、諸星委員、  
宍戸委員、

宮代町：8名出席

新井町長、田中課長、小川副課長、関根主幹、吉田副課長、高橋主査、福満主事、山  
下主事

株式会社東畑建築事務所：久保主管、門脇技師

Life Work：内海氏

## 3 視察報告

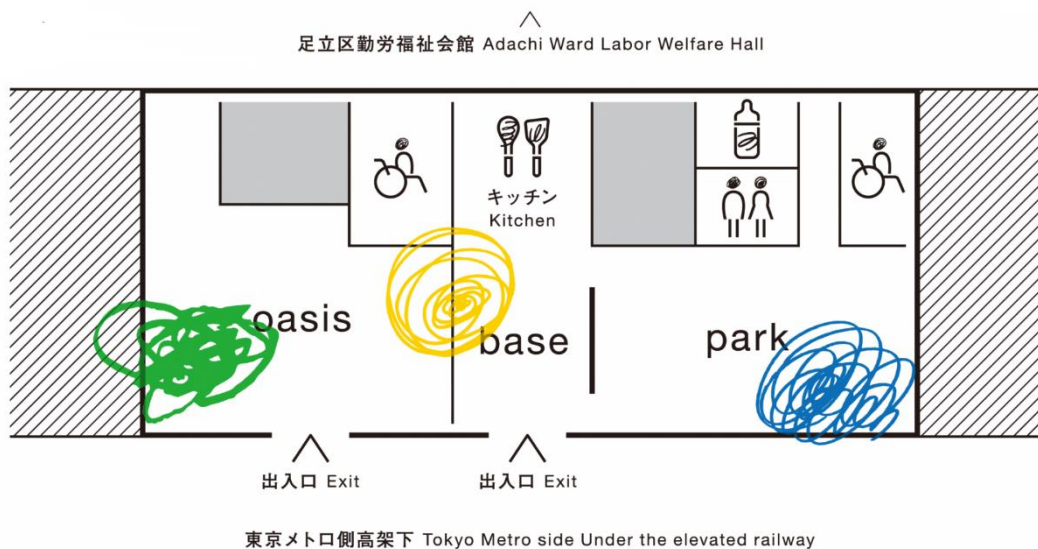
### （1）あやセンターぐるぐる

#### ①施設概要

施設のコンセプト	20年近くシャッターが閉まっていた高架下店舗をJRから区が借り受け、綾瀬の新しい交流と賑わい創出拠点再生することを目的としている。 足立区は、令和4年5月に「SDGs未来都市」及び「自治SDGsモデル事業」に選定されており、この施設はそのモデル事業の一つ。 「やってみたいを、やってみる」 何かを始めたい人、応援し合える人が集まる場。 様々な人や活動がこの場で交わり、協力し合って、やってみたいことを実現していくコミュニティの循環を生み出していく場。
施設概要	令和5年10月開設 3つのスペースから構成 ①oasis「やってみたいこと」を見つける場 暮らし/学び/生き方/アートなどのテーマに沿った本や雑貨の販売を通じて、「興味」や「好奇心」を引き出す。 気軽にコミュニケーションが取れるカフェカウンターも併設。

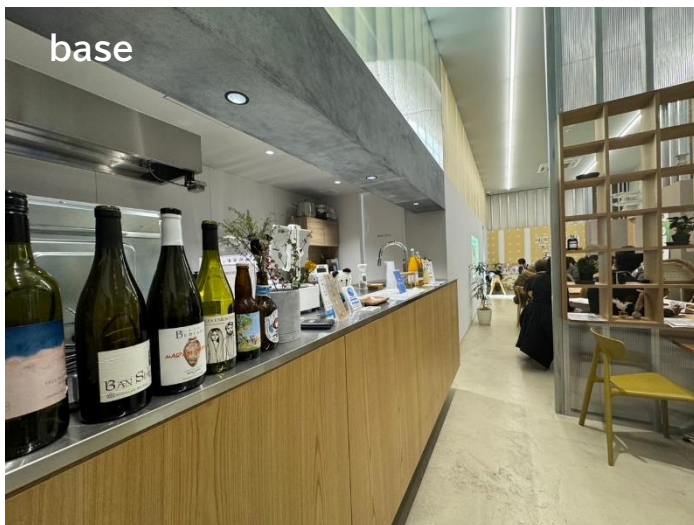
	<p>②base 「やってみたいこと」 をカタチにする場        コミュニティビルダーが常駐し、対話やコミュニケーションを通じて、来場者のアイデアをカタチにしていくまでを支援する。        さらに、コミュニティビルダーが見つけたまちの情報を発信している。</p> <p>③park 「やってみる」 にチャレンジの場        コミュニティビルダーによるイベントやワークショップの開催のほか、キッチンやスペースを活用して、やりたいことに挑戦できる。簡単な食事やドリンクの提供も行っている。</p>
<p>運営について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計及び5年間の運営を株式会社はじまり商店街に委託（総額約1億20,000円）</li> <li>・委託先が派遣する6名のコミュニティビルダーによって、運営されている。</li> <li>・施設の整備前から「綾瀬をもっと愛される地域に」をコンセプトに、綾瀬の住民やまちづくりの関係者などの参加者がアイデアを出し合い、ワークショップを通じて実行に移す会議である「アヤセ未来会議」を開催。地域を巻き込んで、人のつながりや活動を生み出している。</li> <li>・区の職員も地域に飛び出して、関係性づくり等に注力している。</li> </ul>

## ② 現地状況





- JR高架下の商店街内にある。長年空き店舗となっていたスペースを借り上げて活用している。
- 内装はあえて完成させずに、壁や柱等の一部がむき出しとなっている。今後、地域との関わりの中で自由に作りあげていく。
- parkには、テーブルやイスが配置されており、イベントやワークショップ等が開催できる。



- baseにはコミュニティビルダーの常駐スペース、簡単な飲食を提供するカウンターがある。また、まちの情報を発信している。



- oasisには、興味や好奇心を引き出す本や雑貨等が配置されている。また、飲食カウンターがあり、酒類の提供も行っている。



- 通りに面して大窓がある。また、窓の外と中にベンチがあり、窓を開放することで、内外につながるスペースとなる。

## 所感

- おしゃれな施設でふらりと立ち寄れるスペース、地域の人材発掘を「応援」する形で募るやり方、とにかくハブになる人材が必要で、その仕組み次第で活性化がかわってくるのだと感じた。
- 職員が地域に出向き汗を流していると聞いた。町に出て繋がりをつくるとよいと思った。
- お酒を飲みながら交流できる場があるとよい。
- 本とカフェは場所を見つけた人が気軽に入りやすいアイテム・情報の様な気がした。
- カフェエリアには足立区の情報提供だけでなく、全国での様々な活動の情報が提供されていた。興味の幅を広げられそう。
- 足立区も人材の発掘と人材の提供を一連の流れとして考えていた。
- 須賀小学校再整備町プロジェクトチームでも人材の発掘をしてきた。発掘した人たちの中にあるやりたいことを深掘りし、具現化させるためのサポートが必要なのか

もしれない。

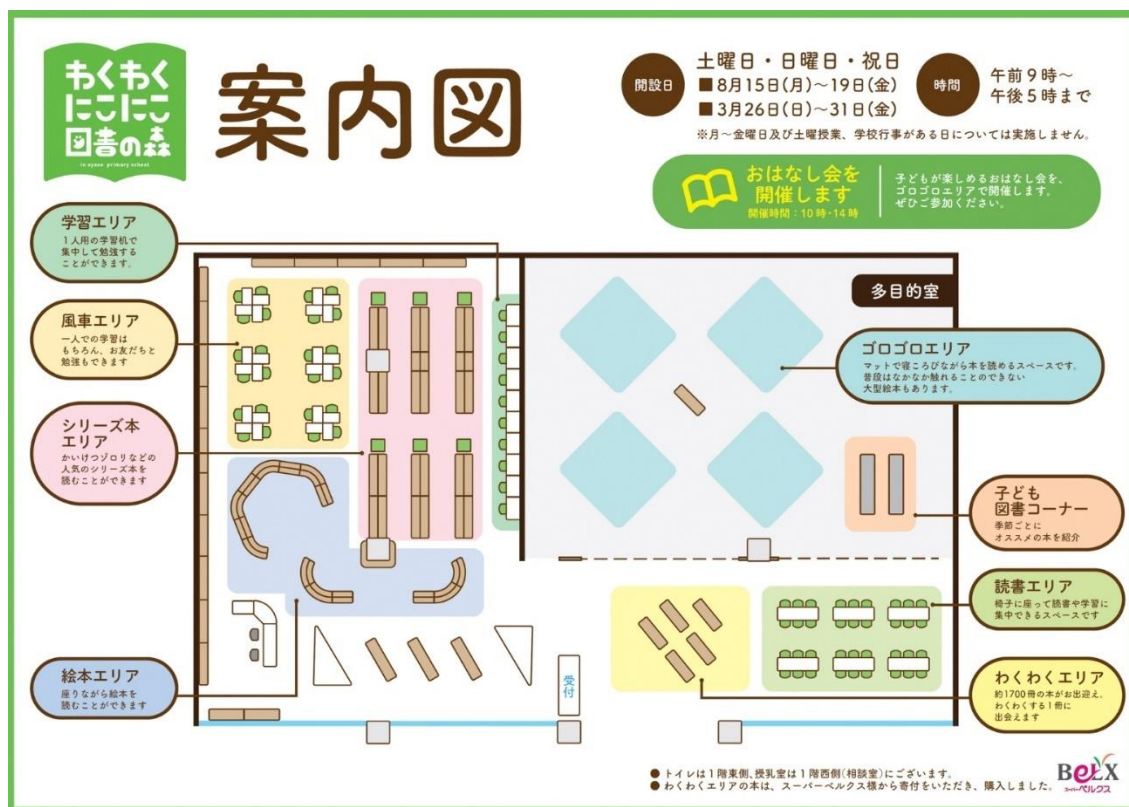
- やりたいことのある方と行政職員と一緒に、同じ視点に立って活動することが大切だと改めて感じた。地域に入り泥臭い活動をしているのが共感できた。
- これまで、市民活動サポートセンターや進修館でも同じ事を目指していて、コミュニティビルダーを活用したり、見せ方が違うのではと感じた。
- あやセンターぐるぐるで、壁が未完成になっていて、「関わり代を残す」という考え方がとてもいいと思いました。
- シェアキッチンを販売目的で使ってもらっているのが珍しいタイプ。飲食店として、地域の人にプレイヤーになってもらう場所。
- 開閉式で屋内と屋外を緩やかにつなぐことができる窓やあえて余白を残した室内など、「みなさんと一緒に創り上げていきたい」という運営側の想いを体現する、また発信できる建物だと感じた。
- 最初から事業者の自立を前提とした運用の始め方は見習いたい。
- 区のご担当者自身が住民全員を対象とするのではなく、「反対は気にしない」「割り切り大事」「共感してくれる人を大事にする」と言える覚悟に感服。
- お酒やコーヒー、本があることは「居場所」としても、また「自分のやりたいことを相談する場所」としても自然に機能できそう。寄り添い感があって住民にとっても好ましい場所となるのでは。言葉を書いたり掲示したりという、誰でも参加できる簡単アクションを常設されていて、かつちゃんと更新されている感じも「みんなが参加」感を演出できる。
- これまでも、多くの学校で「学校応援団」を軸に地域人材を活かす学校づくりを進めてきた。一方で、地域の方が学校の教育活動に参画したくても足を運べなかったり、日程調整等でうまく進まなかったりと、人材確保の視点からの課題もあった。地域とパートナーシップを築いていくためのしかけを学んだ。学校の敷地内に地域の拠点施設があると、これまでの課題を解決できる可能性が広がるのだと感じた。
- 意外と狭かったが、腰を掛けたくくなるような場所であった。ガラス窓が開き、外と中が一体となることがわかり、学童も内と外がつながるような設計になるといいなと思った。

## (2) 綾瀬区立綾瀬小学校地域開放図書室

### ①施設概要

施設のコンセプト	「子どもが本と出会える環境」をつくることを目的として、学校の図書室を地域に開放している。
施設概要	<p>令和4年7月開設</p> <p>綾瀬小学校図書室（1階）</p> <p>対象：小学生、乳幼児とその保護者</p> <p>開館日等：土・日・祝日、夏休み・春休み期間 午前9時～5時</p> <p>管理：足立区中央図書館</p> <p>施設：寝ころびながら本が読めるゴロゴロエリア（多目的ホール）を開放</p>

### ② 現地状況





・校庭に面した昇降口から入る。出入口は児童と共有。



・民間事業者寄贈の本と移動式本棚。本棚は地域開放時はわくわくエリアに移動する。



・ 入口付近配架スペース付近



・ 絵本エリア



・ 多目的室。地域開放時は、マットを敷き、ゴロゴロエリアとなる。イスは可動収納式。



## 所感

- ・ 綾瀬小の図書室については、利用者が限定されているところは仕方ないと思うが、子育て世代に手厚いサービスだと感じた。
- ・ 図書館が地域にないという問題を解消するために、小学校の図書室を子育て世帯に開放するという例だった。新須賀小学校においても図書スペースについて検討がされているので、セキュリティと使い勝手と管理等についてどうあればよいか検討が必要だと感じた。
- ・ 図書室の隣の多目的スペースの可動式観覧席がよかったです。地域と学校で使えたら使用頻度も高いと思う。
- ・ 小学生、乳幼児とその保護者だけが入れるという点が入りやすくよいのでは。
- ・ 入口が外から見えず、入りにくいのかなと思った。外から見やすくするようになる必要がある。
- ・ 地域の人や組織が活動に関心を持ち、関与してくれているようだった。  
(折り紙や本の寄付、布絵本の作成など)



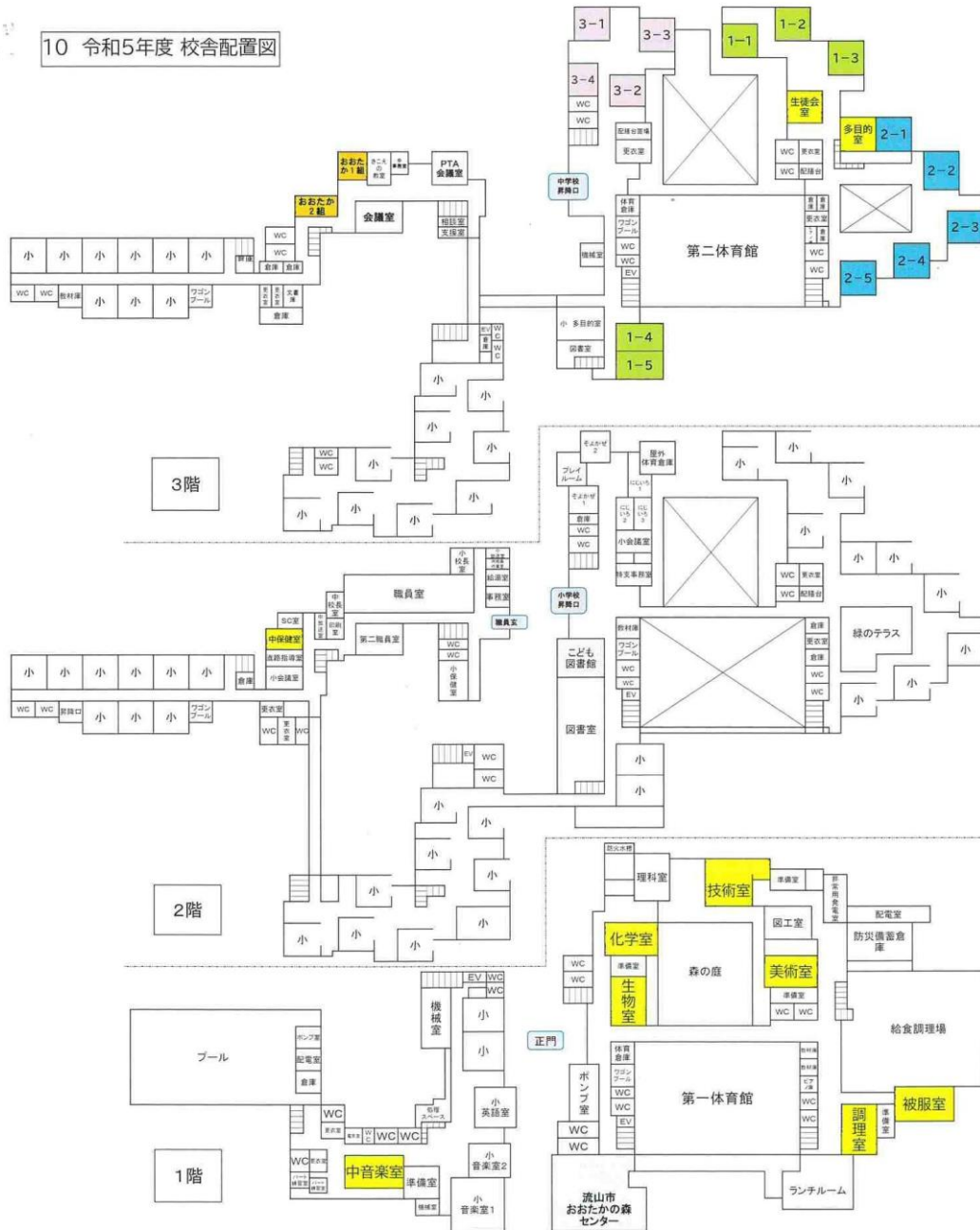
- 小さい子を連れていても図書館を楽しく利用できる施設だと思うが、入口がわかりにくく、入るまでが少しハードルが高い気がした。
- 綾瀬小学校の図書室から2階の小学校の廊下が見える部分があったが、これは子どもの安全を守りながら地域の人たちの気配を感じられる構造だと感じた。
- 学童保育側のトイレの扉が校舎内と校庭側から入れるようになっていたのが運動会や災害時に活用できる仕組みだと感じた。

### (3) 流山市立おおたかの森小・中学校

#### ①施設概要

施設のコンセプト	つくばエクスプレスの開業に伴い、人口及び児童数が大幅増加し、教室不足を解消するために設置。同一敷地内に「おおたかの森センター」「流山こども図書館」、隣接して「学童保育所」を整備し、今後、学校と地域が連携を密にして、学校が地域と共に歩む核として、その役割を期待されている。
複合機能	小学校・中学校 地域交流センター こども図書館 (防災備蓄庫あり)
施設概要	建築構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 施設規模 敷地面積 34,026.56㎡ 延床面積 22,051.99㎡ 地上3階
築年数	約8年
建設期間	約1年5ヵ月
学校の沿革	平成23年11月～24年8月 基本設計 平成24年9月～25年9月 実施設計 平成25年10月～27年2月 建設工事 平成27年 開校
事業手法	独立行政法人都市再生機構 関連公共施設整備制度（立替施行精度）を活用 用地 4,763,000,000円（割賦利息等は除く） 建設 7,848,000,000円（割賦利息等は除く）

10 令和5年度 校舎配置図



## ② 現地状況

### (1) 学校施設



・おおたかの森センター駐車場及び入口



・学校入り口



・教室。窓が大きく、採光性が高い。



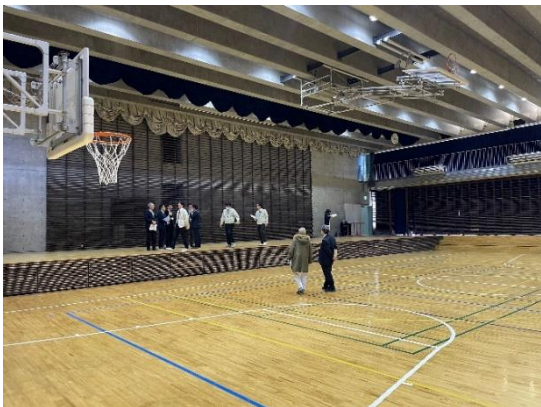
・廊下の共有スペース。



・吹き抜けのフリースペース



・ランチルーム。今は、授業等で使用。



・ 体育館は、2階建て。



・ 中庭式のテラス



- ・ 学校と地域施設の境。木造で見える扉となっている。
- ・ 教室の外のデッキスペース。
- ・ 廊下の真ん中にある手洗い。



- ・増築校舎の廊下。一般的な学校の構造となっている。
- ・迷路のような校舎のため、階段は色分けがされている。

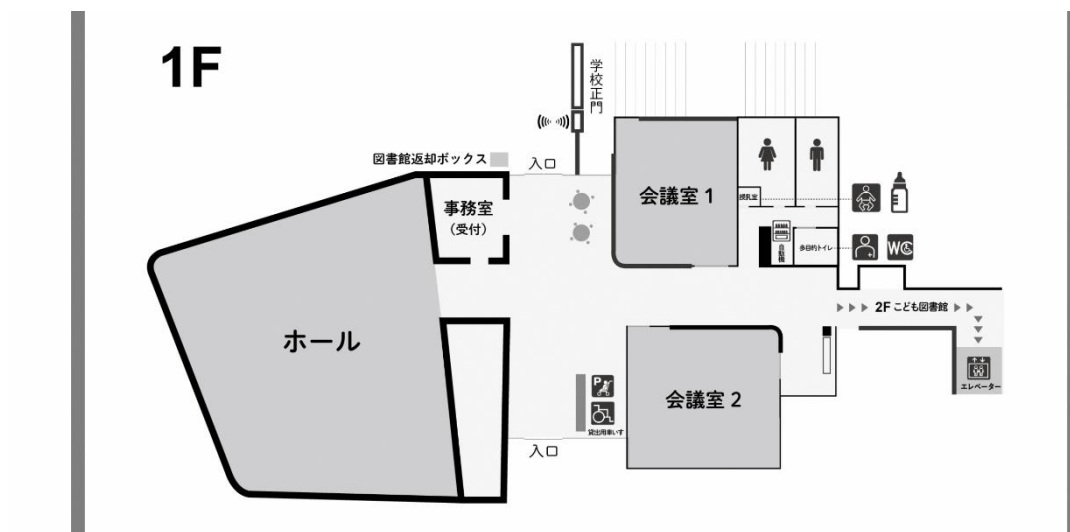
### (所感)

- ・人口が増えている地域なので施設規模の推測は難しいが、将来的な利用内容の転用を検討して建設していることが分かった。
- ・将来の人口推計をきっちりと確認して増築しなくて済むようにした方がいいと感じた。
- ・当初学童は学校内にあったが、児童数の増加により別棟に設置し直したとのこと。おそらく、須賀エリアでの爆発的な人口増は想定できないと思うが、造ってから足りなくなったという結果にならないような造りにしておく必要があると感じた。
- ・予測できない児童数の増減もあるため、「想定外」にもある程度対応できる余白を保持しておくことは必要だと感じた。
- ・検討委員会で児童の昇降口について2階にあったらよいのではという意見があったが、同様の雰囲気が感じられた。一カ所の昇降口より動線はよいと思う。
- ・中庭の効果は光や風が通ることという意味がよくわかった。
- ・教職員ワークショップで2階の教室フロアが回廊になっているといいという意見があり、そのイメージの造りであった。
- ・建物内が広い上、バリアフリーだからか、出入口が多いからか砂っぽい感じが気になった。管理が大変ではと感じた。
- ・従来の姿に近い教室と、よりこだわりのある教室の両方を見ることができた。機能は大切にしたいほうが良いとのこと。
- ・学校全体が段になっていることで、プールを利用していても外から見えないのは良いと思った。
- ・規模感が全然違ったが、設計者の子どもたちへの愛や細部へのこだわりを感じられた。
- ・PTA会議室やワゴンプールなど、小さい目的の場所があったのが良いと思った。
- ・建物として「ランドマークとなるデザイン」と「機能性」をどう両立させるかは十分に検討する必要があると感じた。
- ・先生の教卓（事務机）が廊下のすぐ脇にあり、扉を開閉することで、教室にも廊下にも目が行き届く配置は良いと思った。
- ・グラウンドが解放されていたが、グラウンド内に子どもたちを見守る大人の姿があ

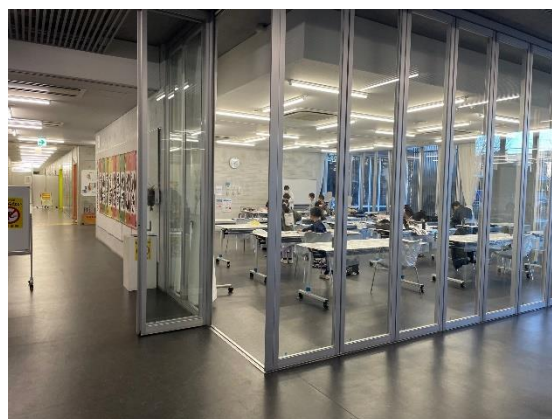
まり見当たらないのは気になった。

- 不要と思われる死角が多い点は、地域の人が入り出す空間の中で児童の安全を守る、という観点では気になった。
- ランドマークとなるデザインを目指して建てられたのにもかかわらず、思っていたほど地域の人に活用されていないのではと感じた。
- 大人数なので、こちらでは人の動線の振り分けが必要だったのだと思うが、須賀小学校の場合は、児童・地域の人とともに、できる限りシンプルで求める場所にアクセスしやすい動線になると良いなと思った。
- 市のご担当者がおっしゃっていたように、須賀小学校単体ではなく、今後、他の小学校をどうしていくかということも視野に入れながら検討すべきことを再認識した。
- 木のぬくもりがあるとよいと感じた。体育館の壁が木目調になっていて、風が通るようになっていて、間仕切も木のロール壁で温かみを感じた。
- 色使いが大事だと感じた。ネームプレートの紐の色で違いを作っていた。
- 子どもたちが自由にのびのびできるような学校になるとよいと思った。
- 階段が多いと感じた。コミュニティセンターとするには、車イスの方も来られるように配慮が必要だと感じた。

(2)おたかの森センター



・ 地域施設の入り口



・ 外から見える会議室 1

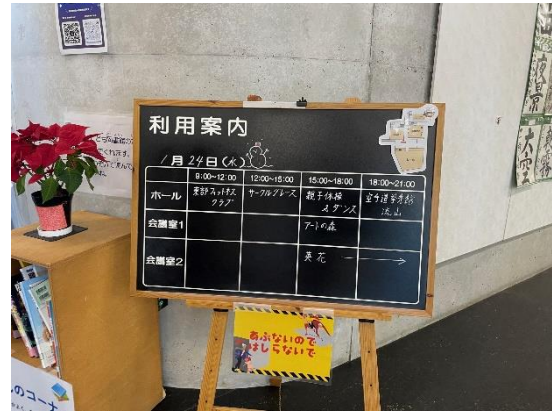
・ 廊下から見える会議室 2

・ こども図書室へは、廊下奥でスリッパに履き替えエレベーターで2階へあがる。





・ホール

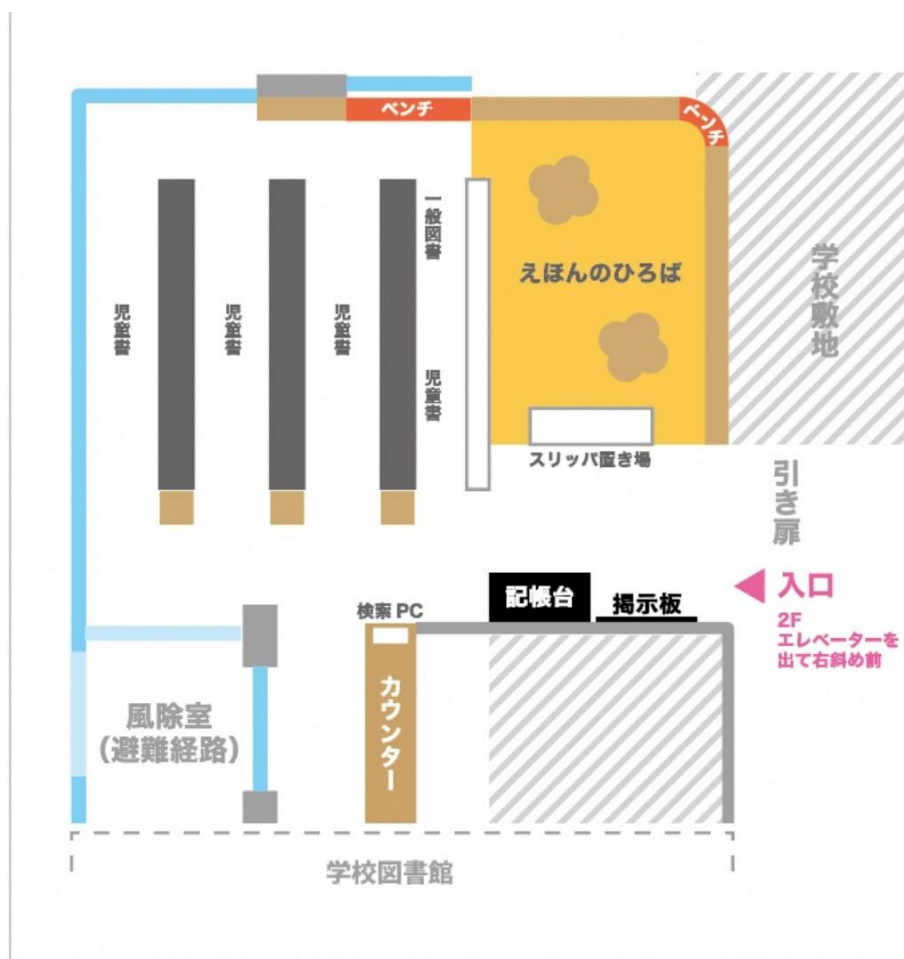


・利用案内板

### (所感)

- ・ 1階のおおたかの森センターが、駐車場から入口→館内の造りが須賀小案のイメージで、交流が図りやすくいい感じに見えた。壁でなくてガラスで中が見えるのもよかった。
- ・ 活動が見えることによって、仲間が増えるなどの効果があるのではと感じた。
- ・ 小学校の施設利用は図書室だけで、動線としてはエレベーターの利用。仕切りとして、木の格子扉は圧迫感がなくていいと思いました。学校側からしか開けられないようにすれば、子どもたちの安全は守りやすくなるかとかと思った。
- ・ 学校が休みの時は、階段にシャッターを下ろすというのもいいと思った。

(3)図書室・こども図書館



・学校図書室。



・カウンター奥がこども図書館。



- ・こども図書館

### 所感

- ・見学した2校とも閲覧のみ可能図書と貸出可能図書が分かれていた。これは児童の学習資料確保の観点から妥当だと感じた。しかし、貸出可能図書が少ないため、対応本を増やすためには資金が必要。
- ・町立図書館からの本の入替や、リクエストした本を時間差で受け取る窓口利用など、人的対応が必要になるため司書等の配置についてが必要。人的リソースが課題になると感じた。